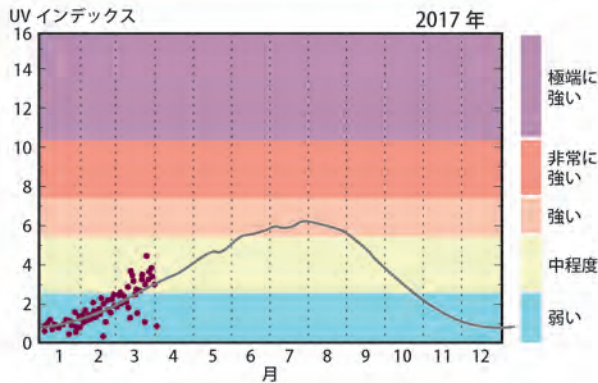


Special.2 春先からの 乾燥対策と光対策を万全にする

冬の寒い季節から温かい春へ。季節の変わり目は気温や外気の変化からお肌が揺らぎがちになります。またエイジングに影響を及ぼす紫外線も強くなる時です。お肌にやさしい保湿ケアと紫外線対策を万全にして、トラブルを寄せ付けない健やかなお肌にするためのポイントをおさらいしていきましょう。

point 1

4月や5月でも 紫外線は十分強い！



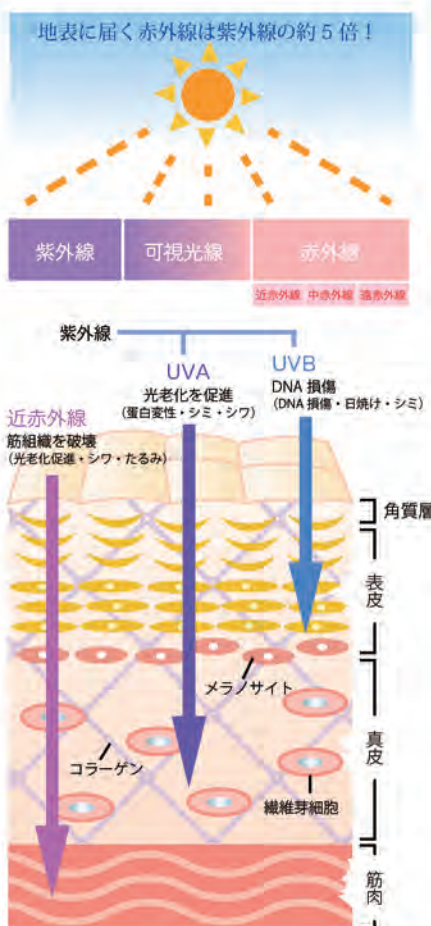
左のグラフをご覧ください。5月に入りますと紫外線は“強い”域には入ります。まさにゴールデンウィークからは紫外線要注意の期間になります。お肌のことを考えたら、この紫外線量を無視することはできません。春先からきちんとお肌を守ることが重要です。

(出典：2017年3月現在
「日最大UVインデックスの年間推移グラフ」
気象庁ホームページより)

point 2

紫外線だけじゃない？ お肌を老化させる原因はさまざまな光

実は、お肌を老化させる要因になる太陽の光は、紫外線だけではありません。いま、近赤外線とブルーライトが注目されています。近赤外線とは、赤外線の種類であり、可視光線より長く、紫外線より圧倒的に長い光です。近赤外線は、赤外線の中では比較的短波長の光ということになります。



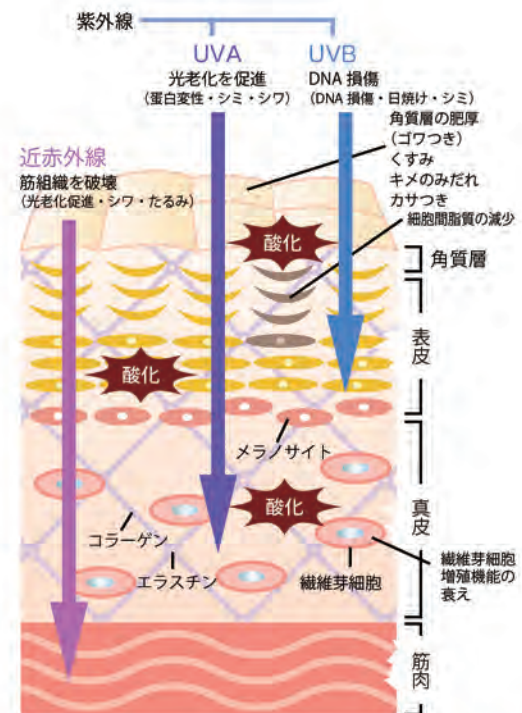
近赤外線の影響とは？

- ・近赤外線の波長は長く表皮、真皮を通りその奥の筋肉まで届くこと
- ・血液中のヘモグロビンに吸収されるため、許容以上の被ばくは、血管やその周りの組織に何らかの負担や影響を与えること
- ・体内の筋肉中のたんぱく質の一種ミオグロビンにも吸収されるため、必要以上の被ばくは筋肉を薄く弱くする影響が懸念されること
- ・活性酸素の発生に加担すること

など。

ブルーライトとは？

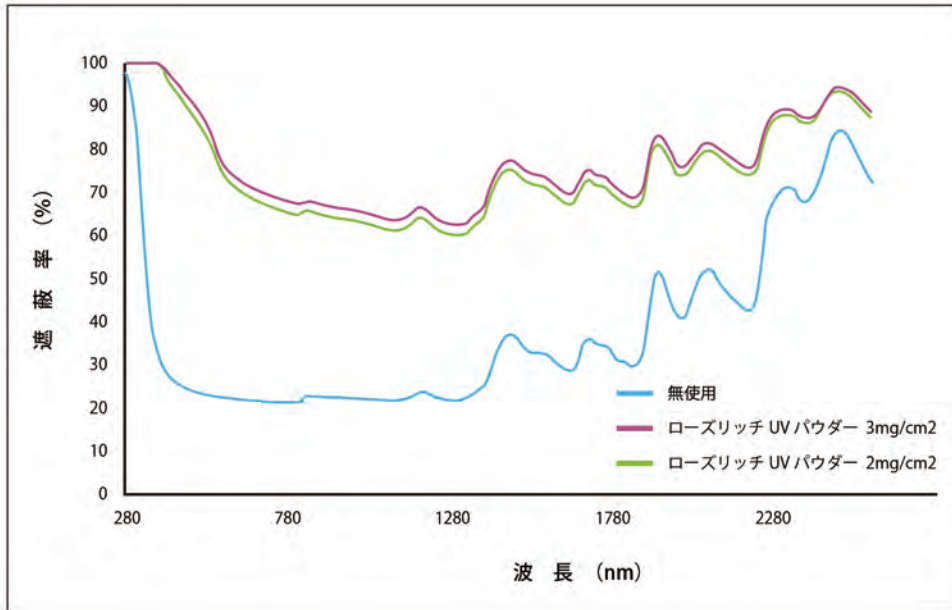
パソコンやスマートフォンなどの液晶画面から発せられる青い光です。波長が短く、可視光線の中でもエネルギーが最も大きい光で、目の疲れや精神的疲労の原因になります。最近目は目だけでなく色素沈着やシワなど、お肌への影響が懸念されています。



point 3

太陽の光は一年中降り注ぎ、 特に春からは強烈になることを認識！ あらゆる光からお肌を守ることが重要

お肌は紫外線をはじめとした太陽の光を浴びすぎると、老化を早めてしまいます。また、数種類の光 — 紫外線、ブルーライトや近赤外線特性によって、お肌の表面の表皮から真皮、その下の皮下組織や筋肉にまで深く取り戻せないようなダメージを与えかねないことがわかりました。これからの季節のUV対策を大切にしましょう。紫外線や昔の日焼けが気になる方、まだ十分に間に合います。今のお肌を大切にしていけば、お肌はターンオーバーごとに入れ替わっていますから、お肌はじっくりと生まれ変わるように変化していくのです。そのためにも、あらゆる光からお肌を守るUVアイテムをお使いになられることをおすすめします。



ブルークレールのローズリッチ UV パウダーについて、社内試験で左記の波長の光を当てその光の遮蔽能力(ガード力)を調べました。

UV-A・UV-B(280~400nm)
ブルーライト(380~495nm)、近赤外線(700~2,500nm)波長全体において、ローズリッチ UV パウダーは安定して高いガード力を示しました。さらにお肌に乗せるパウダーの量を2通りにして試験したところ、通常の量と多めの量とではほとんど差が出ず、両方とも高い遮蔽力があることがわかりました。つまりローズリッチ UV パウダーは厚塗りの必要なく、通常通りのお使い方でお肌を守ります。

point 4

光対策と合わせた乾燥対策で 万全の美肌対策を



ブルークレールのUV製品(UVラグジュアリーデイクリームII、ローズリッチUVパウダー)は、あらゆる光の要素と外的環境ストレスから、皆さまの大切なお肌を守る処方になっています。紫外線、花粉、PM2.5、ロングUV-A、ブルーライト、近赤外線までプロテクトしながら、お肌をうるおいで守ります。



紫外線をはじめとする太陽の光を浴びるとお肌は軽いやけど状態になります。やけどとはお肌の中での強烈的なインナードライです。日焼けをして乾燥をしたお肌を強く洗顔したりこすると、お肌は大きなダメージを受け、シミやシワなどのトラブルが現れやすくなります。

「日焼け+乾燥+こすること」は、お肌のために決してしてはいけない悪の三循環となります。

太陽の光対策をするとともに、保湿ケアを十分に行いましょう。普段から使うUV製品自体に良質な保湿成分が十分に含まれていること、しっとりとした使い心地であることが大切になります。水分と油分のバランスを大切に、美容液、化粧水と合わせてクリームなどを使いましょう。